

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200810		
法人名	有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生		
事業所名	グループホーム蔵 やまと館		
所在地	札幌市北区新川2条10丁目1-35		
自己評価作成日	平成29年10月31日	評価結果市町村受理日	平成29年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0170200810-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム全体のスローガンは、①ゆとりを持って介護しよう。②自分で考えて動けるスタッフを育てる。やまと館では、『心のゆとりに笑顔が生まれる』を、なでしこ館では、『家族のように笑顔で暖かく』をモットーにしている。
利用者様の尊厳を大切に、優しい声かけと、笑顔で利用者様に接している。
又、夏季はなるべく外に出る事で、運動不足解消や気分転換に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム蔵」は、近くに琴似川が流れる札幌市郊外の静かな住宅地に立地している。明るく清潔感がある建物内は広々とした使いやすい造りで、季節感のある温かな装飾が施されている。代表者は、日頃から職員の意見や提案に耳を傾けながら働きやすい職場環境の整備に努めており、職員の定着率も高い。法人研修や内部研修を計画的に行い、職員の資質向上に取り組み質の高いケアを実践している。理念を定期的に唱和する事で、職員の理解も深められている。楽器演奏やマジックなどの地域ボランティアや児童会館の子供たちとの交流、住民への介護相談会を開催するなど地域に根差している。運営推進会議は多くの地域役員が参加して情報交換を行い、充実した内容で開催している。今年度は家族アンケートを実施し、家族の意見や要望に真摯に向き合っている。家族の意向に沿って看取りにも前向きに取り組んでいる。花見や紅葉狩りを楽しんだり、各利用者の希望に応じて好きな場所に出かけるなど年間を通して外気に触れる機会を設けている。介護計画はカンファレンスで情報交換しながら細やかな計画を作成している。明るい笑顔で一人ひとりの思いに沿って柔軟に対応する職員の姿勢は、利用者と家族の安心感につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(やまと館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、スタッフが携わり作成し、地域との交流について謳っている。毎週月曜日の申し送りの時、当日勤務のスタッフ、管理者等で唱和し意識を高め、実践に繋げるようにしている。	「地域に根ざし人と人 共に生きて共に暮らす」という地域密着型サービスを意識した理念を作成し、事業所内の要所に掲示している。代表者が理念について話をする機会も多く、全職員で理解を深めて日々実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々とは、日常的に挨拶等を交わしている。又、運営推進会議を通して、町内会役員の方々が地域行事等への参加を快く迎えて下さっている。地域ボランティア、児童会館児童との交流もある。	町内清掃や公園の花植え、地域の盆踊りなどの行事に利用者と一緒に参加している。近隣住民からおむつや花を戴いた事がある。年数回、楽器演奏やフラダンスなどの地域ボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症の人の理解を深めて頂ける様、努めている。又、地域向けに、年1度、ホーム見学と介護相談会を開催し、日常的にも、電話や来訪で相談を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議の中で、必ずホームの近況報告を行っている。利用者の身体状況や行事等での表情なども伝えている。又、事故報告も行い、意見を伺っている。	町内会役員が多数参加し、市の出前講座なども取り入れながら充実した内容で開催している。家族の参加につながるように、新しい入居者家族に出席を依頼するなど工夫した取り組みを行っている。全家族に議事録の送付は行っていない。	ミニ講座などの内容も記載しながら、全家族に議事録を送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給利用者が数名おり、区役所保護課の担当者の面談時等に、本人の状況を伝え、協力関係を築けるよう努めている。	管理者やケアマネジャーが介護保険の更新申請などで区役所を訪問したり、書類の記載方法などについて電話で確認する事もある。個別の困難事例などがあればその都度相談し、課題の解決につなげている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で具体的な行為を学習し、身体的拘束をしないケアについてスタッフ同士、話し合い確認している。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、禁止の対象となる具体的な行為を「抑制チェックリスト」に分かりやすく記載して年1回法人研修を実施している。禁止用語など、不適切な言葉かけがあれば注意を促している。外出しようとした時も一緒に出かけて、安全面に配慮しながら自由な外出を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止法について職員研修を行い、事業所内での虐待が見過ごされないよう注意している。又、毎月の主任会議の場で、身体拘束廃止委員会を設け、防止の徹底に努めている。		

グループホーム 蔵

自己評価	外部評価	項目	自己評価(やまと館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフが成年後見制度について、学ぶ機会は無かったが、社内研修で高齢者虐待防止について全員が学び、利用者の支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間をかけ、契約書を読み合わせ、丁寧に説明している。疑問点等が無いか、確認し、理解を載している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で、アンケートを用い、要望等を把握する機会を設けた。又、来訪者カードに要望欄を設けている。要望等は、参考にし、改善に努めている。	来訪時の帰りに、家族に話した利用者の思いを聞き取ったり、年1回開催する家族会で具体的な項目でアンケートを実施している。家族からの意見や要望は、家族との連絡ノートに記載して職員間で情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度末に事業内容の反省と次年度の計画を立てる際に、意見を募り、提案する機会を設けている。	代表者は、各職員と随時面談を行っている。勉強会で意見や提案を聞き、運営やケアに反映させている。職員は、研修や行事、親睦会や畑の管理などの係を担当しながら運営やケアに携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より、個々の実績、勤務状況の報告を受け、自ら確認を取り、個別に声かけするようにしている。給与については、いつも昇給に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修の機会の確保に努めている。研修報告と実践報告のレポート、提出を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議に出席し、他施設との交流がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(やまと館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談で、不安な事や要望をお聞きしている。又、本人の不安が軽減できるよう、声かけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式の活用で、生活や病気歴について把握している。面談でも、詳しく、困っている事などをお聞きしている。又、電話等でも相談に応じるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望に応じて、入居前に受けていた訪問診療等をそのまま継続出来るように努めている。又、髪染めやパーマなど、希望通りに対応できるよう、ホームで利用している業者に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの出来る事を見極めて、共に行動し、関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪の度、利用者様の近況報告を行い、「今、何が必要なことなのか、何がしたいのか」を、常に話し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の来訪や場所の関係が途切れないように継続支援を行っている。	近所に住んでいた友人や以前のケアマネジャー、宗教関係の知人が来訪する利用者もいる。職員と一語に喫茶店やカラオケなどに外出したり、車で遠方の自宅に出かけて親族に会って来た利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性等を考慮し、同席で互いに係わりが出来るよう支援している。又、一人ひとりが孤立しないよう、スタッフが間に入り、関係が円滑に出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(やまと館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去した場合は、見舞いに行っている。看取りで退去の場合は、1周忌に供花を届けるなど、退去後も関係を大切にす様努めている。又、夏祭り行事に退去ご家族を招待している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が孤独にならないように声かけし、心配なことや不満等がないか傾聴し安心して頂けるよう努めている。	個人カンファレンスで本人の意向を確認したり、日頃の会話や表情、行動などから思いを把握している。課題分析シートの他、趣味や嗜好などを記載できるシートの作成を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らしについては、センター方式を用いている。これまでのサービス利用についても、本人のファイルにまとめ、スタッフ全員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームの日課にも参加して頂きながら、利用者様のペースを尊重している。その日の精神状況等も、日誌に記入しスタッフ全員が把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度の総合カンファレンスで、短期間の見直しが出来ている。状況変化は都度ご家族に伝え、要望等をお聞きしている。又、半年に1度の個人カンファレンスでは、本人にも参加頂き、希望をお聞きしている。	来訪時や電話で家族の意向を確認しながら、毎月総合カンファレンスや日々の介護日誌を基に3か月毎に介護計画の見直しを行っている。課題分析シートや基本情報シートも6か月毎に更新して、本人の状態把握に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは、個別に介護日誌に記入している。プラン実行欄に実行できたプラン内容を毎日記入し、共有している。カンファレンス等でケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、訪問マッサージ、訪問理美容等の利用で本人やご家族のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム隣のコンビニエンスストアへ、頻りに利用者様と共に買い物に行くこと等で、地域に対し、ホームの認識を高めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医を継続している利用者も数名いる。本人の体調について、かかりつけ医とご家族に、都度報告し、適切な医療を受けられるよう努めている。又、ホームと契約している訪問診療医との関係も同様である。	家族の支援で、かかりつけの専門医を継続して受診している利用者もいる。本人の状態を口頭で伝え、受診結果は家族から口頭や検査結果などの書類で情報を得ている。往診と受診記録は看護記録に個別に記録している。	

グループホーム 蔵

自己評価	外部評価	項目	自己評価(やまと館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が、週2回勤務している。利用者の健康管理について相談、対応を行っている。勤務日以外でも電話等での対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際しては、入院先の相談員等と情報交換等で、関係づくりに努めている。又、見舞いに行って本人の様子を確認を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについての希望をお聞きし、書面に記載している。又、重度化した場合は、その都度、ご家族や医師と話し合いの場を持ち、方針の確認を行っている。	「重度化に対応した医療連携体制の指針」に看取り対応についても記載し、利用開始時に説明している。常時医療行為が必要になった場合は事業所での対応は難しくなる旨を説明し、可能な限り家族の意向を尊重して看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修、外部研修を定期的に行い、初期対応、応急手当など実施できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を毎月行っている。消防団、地域住民の方々にも年に2回参加頂き、大規模な訓練も実施している。	消防署の協力を得て、年1回夜間の火災を想定した避難訓練を地域住民参加の下に実施し、日中想定自主訓練にも地域住民が参加している。救急救命訓練を受講し備蓄品も整備しているが、火災以外の災害に対する対策は十分とは言えない。	地震など火災以外の災害を想定して居室、共用空間の危険箇所を確認するよう期待したい。また、災害発生時のケア場面での具体的な対応について職員間で話し合うよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分に意識し、一人ひとりの人格を尊重した丁寧な声掛けに努めている。	呼びかけは「さん」づけを基本とし、内部研修で接遇を学んでいる。利用者から見えない場所にファイルを保管し、申し送りは部屋番号で話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えには、すぐに対応するよう努めている。希望を表す事が出来ない利用者様には、表情等から汲み取れるよう努めている。個人カンファレンスは、本人に参加して頂き、希望等をお聞きしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ラジオ体操、嚙下体操、日替わりのレクリエーションは日課として行っている。その他の場面では、利用者様の意思を尊重して生活して頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝のモーニングケアの際に整容を行っている。又、お祭りやクリスマス会等の行事の際は服装、髪型、化粧等本人の希望を聞きながら、特に気をつけて支援している。		

グループホーム 蔵

自己評価	外部評価	項目	自己評価(やまと館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中で食べたい物、食べたくない物について希望を聞き、なるべく希望に添えるよう工夫し提供している。食器拭きやすすぎなどは毎日手伝って頂いている。	利用者ができる範囲で食器洗いや食器拭きを手伝っている。誕生日には希望を聞いてケーキや赤飯を用意している。利用者と職員と一緒に会話を楽しみながら同じ食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、一人ひとりの利用者様に合わせ、塩分量の配慮や食事の形態等を工夫し、より美味しく食べて頂けるよう努めている。又、水分量は細かくチェックし、一日を通し記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。うがいの出来ない利用者様には、口腔用スポンジに緑茶を含ませ、口腔内を拭いている。又、口腔内のチェックも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を把握し、声かけや誘導を行っている。いつまでも、トイレでの排泄が出来るよう援助している。	全員の排泄状況を記録してパターンを把握し、タイミングを見ながら誘導している。誘導時は羞恥心に配慮している。日中は立位が可能な方はトイレでの排泄を支援し、夜間は状態に応じてトイレまたはベッド上で排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、起床後に乳酸菌飲料を摂取し便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回の入浴日では、一人ひとりのタイミングに合わせて、入浴を楽しんで戴いている。又、入浴日以外でも状況や本人の希望に沿って支援している。	各利用者が週2回の入浴ができるよう支援しており、曜日や時間帯も希望に合わせている。拒否がある場合は日にちや誘う職員を変えている。入浴剤を使ったり、職員との会話により楽しく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や本人の希望に応じて休んで頂いている。又、夜間、安眠が出来るよう、日中は体操やレクリエーション等で身体を動かして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬について、全職員が把握し、投薬時は必ず、職員同士、声を掛け合い、名前の確認をして誤薬が無いよう、努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた家事仕事で張り合いを感じて頂くよう支援している。散歩が日課の利用者様の外出や飲酒についても、提供できる機会を設けている。		

グループホーム 蔵

自己評価	外部評価	項目	自己評価(やまと館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	夏季の天気の良い日は、出来るだけ外に出て菜園を眺めたり、散歩をしている。歩行状態の良い利用者様はスーパー等まで歩いて出かけている。ドライブを兼ね、花見や紅葉狩り等に出かけている。地域の行事の参加では、地域の方々に協力頂いている。	暖かい時期は琴似川沿いを歩いたりドライブに出かけ、事業所の畑仕事をする方もいる。行事では花見や紅葉狩り、初詣などがあり、冬季は法人のもう一つのグループホームと行き来している。デパートに生け花展を見に行ったり、喫茶店に出かけるなど個々の希望に応じた外出も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行により、殆どの利用者様が金銭管理が出来ないので職員が管理している。買い物で、支払いが出来る利用者様は、職員が見守り、自力で支払いを行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば都度対応し、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせる様、居室、居間等の温度や湿度は、暖房機、加湿器等で調整している。又、壁には季節を感じられる飾り付けや写真を貼って工夫している。	玄関ホールは光が差し込み明るく、居間は1階、2階ともベランダがあり、開放的である。共用空間が広く、トイレや浴室、キッチンも使いやすく配置されている。季節の装飾や利用者の作品、絵画などが飾られ、親しみやすい雰囲気である。清掃が行き届き各所とも清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテレビの側にソファがあり、利用者同士、自由に使用されている。食卓テーブル席からも、テレビが見える等、配置に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物、好みの物を置いており、好きな時に居室で過ごせる様にしている。	居室にはテレビや仏壇、タンス、ベッドなど利用者が馴染みの家具を持ち込んでいる。壁にはカレンダーや家族の写真などが飾られている。戸棚にラジカセや時計を置いたり、部屋で年賀状を書いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り、死角が無いよう、安全に生活が出来る空間を支援している。危険がある時は都度、話し合い、改善に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200810		
法人名	有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生		
事業所名	グループホーム蔵 なでしこ館		
所在地	札幌市北区新川2条10丁目1-35		
自己評価作成日	平成29年10月31日	評価結果市町村受理日	平成29年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム全体のスローガンは、①ゆとりを持って介護しよう。②自分で考えて動けるスタッフを育てる。やまと館では、『心のゆとりに笑顔が生まれる』を、なでしこ館では、『家族のように笑顔で暖かく』をモットーにしている。
利用者様の尊厳を大切に、優しい声かけと、笑顔で利用者様に接している。
又、夏季はなるべく外に出る事で、運動不足解消や気分転換に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0170200810-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年11月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(なでしこ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、スタッフが携わり作成し、地域との交流について謳っている。毎週月曜日の申し送りの時、当日勤務のスタッフ、管理者等で唱和し意識を高め、実践に繋げるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々とは、日常的に挨拶等を交わしている。又、運営推進会議を通して、町内会役員の方々が地域行事等への参加を快く迎えて下さっている。地域ボランティア、児童会館児童との交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症の人の理解を深めて頂ける様、努めている。又、地域向けに、年1度、ホーム見学と介護相談会を開催し、日常的にも、電話や来訪で相談を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議の中で、必ずホームの近況報告を行っている。利用者の身体状況や行事等での表情なども伝えている。又、事故報告も行い、意見を伺っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給利用者が数名おり、区役所保護課の担当者の面談時等に、本人の状況を伝え、協力関係を築けるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度、主任会議で身体拘束について話し合う機会がある。すべての職員が身体拘束に対する知識は理解している。入居者に危険がない限り行動を見守り、身体拘束をしないケアに努めている。施錠については防犯上夜間のみ行っている。ベッド柵についてもご家族の了解を得て安全及び自立支援の為に使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、内部研修を行い事例などを通して虐待についての知識を深めている。虐待に繋がる恐れがある不適切介護についてもスタッフ間で意識し未然に防止できるよう努めている。		

グループホーム 蔵

自己評価	外部評価	項目	自己評価(なでしこ館)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する職員研修は実施していないが、成年後見人制度を利用していた入居者様もいるので必要に応じ活用できるよう支援して行きたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間をかけ、契約書を読み合わせ、丁寧に説明している。疑問点等が無いか確認し、理解を図っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で、アンケートを用い、要望等を把握する機会を設けた。又、来訪者カードに要望欄を設けている。要望等は、参考にし、改善に努めている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度末に事業内容の反省と次年度の計画を立てる際に、意見を募り、提案する機会を設けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より、個々の実績、勤務状況の報告を受け、自ら確認を取り、個別に声かけするようにしている。給与については、いつも昇給に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修の機会の確保に努めている。研修報告と実践報告のレポート、提出を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議に出席し、他施設との交流がある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(なでしこ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談で、不安な事や要望をお聞きしている。又、本人の不安が軽減できるよう、声かけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式の活用で、生活や病気歴について把握している。面談でも、詳しく、困っている事などをお聞きしている。又、電話等でも相談に応じるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望に応じて、入居前に受けていた訪問診療等をそのまま継続出来るように努めている。又、髪染めやパーマなど、希望通りに対応できるよう、ホームで利用している業者に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とレクリエーションや学習プリント、歌、塗り絵、家事仕事など一人一人の能力に合わせ一緒に行う事でコミュニケーションを築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時などに普段の様子をお伝えしたり、ご家族が不安に思っている事やこちらが困っている事などを相談しながらより良い介護が出来るよう努めている。月に一度発行している家族通信などでも近況を報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも参加して頂ける行事があり来訪を呼びかけている。ご家族や親せきなどが来訪された時には居室でゆっくり過ごして頂いている。馴染の所へはスタッフが同行し出掛けられるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り円滑にコミュニケーションが取れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(なでしこ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去した場合は、見舞いに行っている。看取りで退去の場合は、1周忌に供花を届けるなど、退去後も関係を大切にする様努めている。又、夏祭り行事に退去ご家族を招待している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し送りや日誌などで情報共有できるようにしている。個人カンファレンスには一緒に参加して頂き意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族の会話や情報、利用していた事業者からの情報をスタッフ間で共有し把握に努めている。馴染みの物や暮らし方など出来る限り同じ環境で過ごせるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務前には業務日誌や個人記録に目を通し現状の把握に努めている。心身状態や能力に応じ一日の過ごし方を考えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度の総合カンファレンスで、スタッフが意見やアイデアを出し、話し合っている。短期間の見直しが出来ている。状況変化は都度、ご家族に伝え、要望等をお聞きしている。又、半年に1度の個人カンファレンスでは、本人にも参加頂き、希望をお聞きしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の記録に記入しスタッフ間で情報を共有している。プラン実行欄には実践した内容、気づきなどが記入されており計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族と相談しながら訪問歯科、訪問リハビリ、訪問マッサージ、訪問理美容などその時々ニーズに合わせサービスが受けられるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事への参加や近隣店舗への買い物、避難訓練などを通し地域の中で安心して生活できるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医を継続している利用者も数名いる。本人の体調について、かかりつけ医とご家族に、都度報告し、適切な医療を受けられるよう努めている。又、ホームと契約している訪問診療医との関係も同様である。		

グループホーム 蔵

自己評価	外部評価	項目	自己評価(なでしこ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師がおり、情報を今日共有しながら入居者様の現状に合わせた対応、処置、受診、看護などの支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際しては、入院先の相談員等と情報交換等で、関係づくりに努めている。又、見舞いに行って本人の様子の確認を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについての希望をお聞きし、書面に記載している。又、重度化した場合は、その都度、ご家族や医師と話し合いの場を持ち、方針の確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、全職員が救命救急の研修を受け緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を実施している。日中や夜間想定、火元を知らせずに行うなど工夫している。地域の方にも参加して頂く機会も設けている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、丁寧な言葉かけをスタッフ間で意識するよう心掛け対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る入居者様には飲みたい物や食べたい物など自己決定が出来る働きかけをしたり、希望が叶えられるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが無理強いせず個人のペースを大切にしている。入浴や外出の機会なども臨機応変に対応するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めやお化粧、好みの洋服などおしゃれが出来るよう支援している。		

グループホーム 蔵

自己評価	外部評価	項目	自己評価(なでしこ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事がマンネリ化しないよう一人一人に合わせた外食やバイキング、ホットプレートなどでお好み焼きを焼いたりジンギスカンを焼いたりしている。後片付けなども入居者様と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせ食事量や水分量を調整し日誌に記入している。摂取量が不足しているようであれば食べやすい物や飲みやすい物、好みの物、栄養補助食品なども活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。入居者様の能力に合わせて不十分な所はスタッフが介助し口腔内の清潔が保持できるよう心掛けている。食前には口腔体操を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行っている。出来るだけトイレで排泄が出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様の排泄状況を把握し、飲むヨーグルト、牛乳などの量を調整している。午前、午後と体操などで身体を動かす機会を作っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、入浴できるよう支援している。入浴に拒否がある方には無理強いをせず日時を変更したり状況に合わせて臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や状況に応じて居室で休んで頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用前に名前、日付、服用時間帯を確認し、声を掛け合い誤薬を防止している。一人一人のお薬情報はファイルされておりいつでも確認できる。変更などがあった場合は日誌に記入し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などから一人一人にあった役割、好きな事、できる事を提供出来るよう努めている。また、レクリエーションなどを通し楽しく身体を動かす機会を多く取り入れたり、外食や会出などで気分転換して頂いている。		

グループホーム 蔵

自己評価	外部評価	項目	自己評価(なでしこ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り日光浴や畑の野菜収穫など少しの時間でも外に出る機会を作るようにしている。お花見や遠足、外食など計画を立て普段はいけない所や希望の場所に出掛けられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で小遣をお預かりしているが、少額のお金をご自分で管理されている方もいる。希望に応じて日用品などの買い物にも出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望された時には電話をしたり、ご家族からの電話を取り次いだりしている。自筆で年賀状を書いてご家族に送付している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には入居者様と一緒に作ったちぎり絵や作品、写真などを展示している。テレビの音や温度などにも気を配り、適宜空気の入れ替えなども行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	裁縫や編み物、塗り絵、気の合った入居者様同士ソファでテレビを見たり、雑誌を読んだり、レクリエーションに参加したり思い思い過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団やパジャマ、家具などはご本人が使用していた物や好みの物を使って頂き安心感を得て頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には個々の名前、トイレや洗面所には大きく見やすい場所に明記し混乱しないよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 蔵

作成日：平成 29年 12月 6日

市町村受理日：平成 29年 12月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議には、数名のご家族に出席頂いているが、欠席者に、会議内容の報告がされていない。	全てのご家族に、会議の内容を把握して頂く。	会議終了後に作成する報告書を、利用料請求書等の送付時に同封し、全ご家族に郵送する。	1ヶ月
2	35	火災以外の災害(地震、水害等)時の対応について、職員間で話し合い等が行われていない。	地震、水害等の災害時について、全職員の防災意識を高める。	火災避難訓練は、毎月行っている。その中で、計画的に、火災以外の災害の、ケア場面での具体的な対応について話し合い、防災意識を高めていく。	1ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。